

令和6年度 市政世論調査

報告書 概要版

この報告書概要版は、令和6年7月23日～令和6年8月6日にかけて実施した「令和6年度市政世論調査」の主な結果をまとめたものです。

< 目次 >

I. 調査の概要	1
II. 調査回答者の属性	2
III. 調査結果	4
1. 暮らしや居留意向について	4
2. 越谷市への愛着度と魅力発信について	5
3. 広報について	6
4. 市内の公共交通について	8
5. 景観（風景）について	9
6. 地場農産物や地産地消について	10
7. 参加と協働のまちづくりについて	11
8. 駅周辺における放置自転車について	12
9. 環境政策について	13
10. 人権全般に関する意識について	15
11. 男女共同参画について	16
12. 自殺防止について	18
13. 地域医療体制について	19
14. 介護サービスについて	20
15. 芸術文化活動について	21
16. 生涯学習活動について	22
17. スポーツ・レクリエーションの実施状況について	23
18. 越谷市の施策について	24

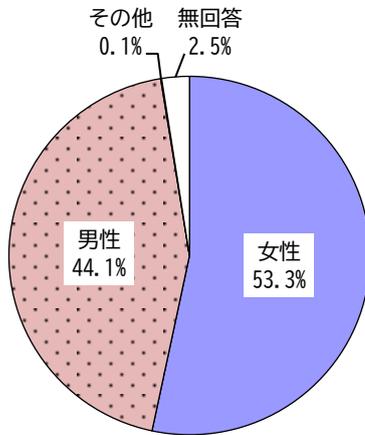
I. 調査の概要

- ◆ 調査地域：越谷市内全域
- ◆ 調査対象：市内在住の18歳以上の男女5,000人
- ◆ 抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出
- ◆ 調査方法：郵送法（郵送配布－郵送回収あるいはインターネット回収）
- ◆ 調査期間：令和6年7月23日～令和6年8月6日
- ◆ 回収結果：有効回収数 2,387人 回収率 47.74%

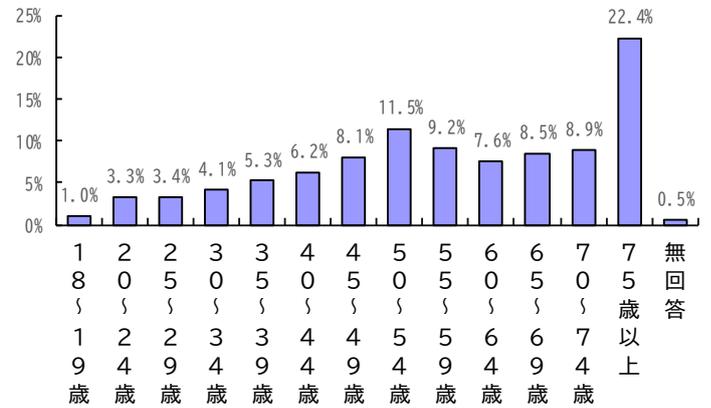
II. 調査回答者の属性

回答者の属性は以下の通りである。

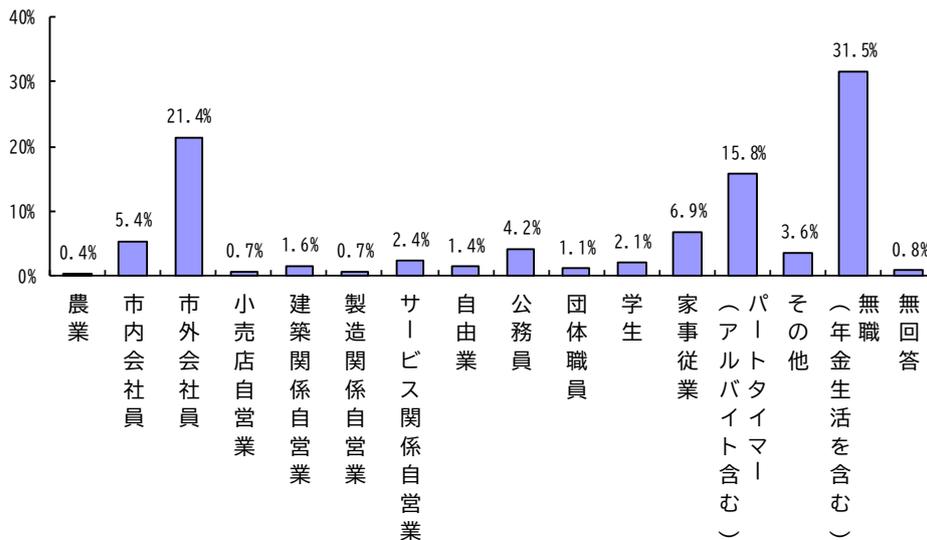
◆性別 (n=2,387)



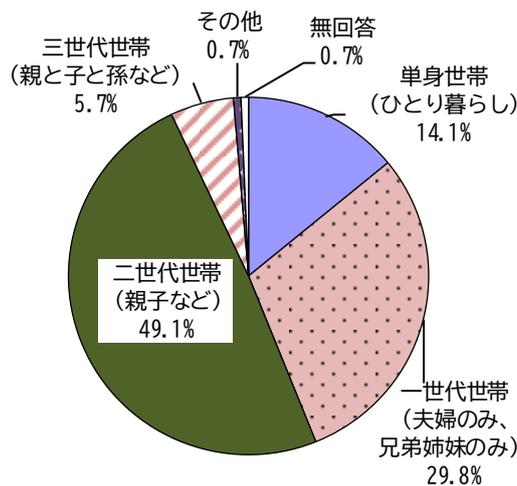
◆年代 (n=2,387)



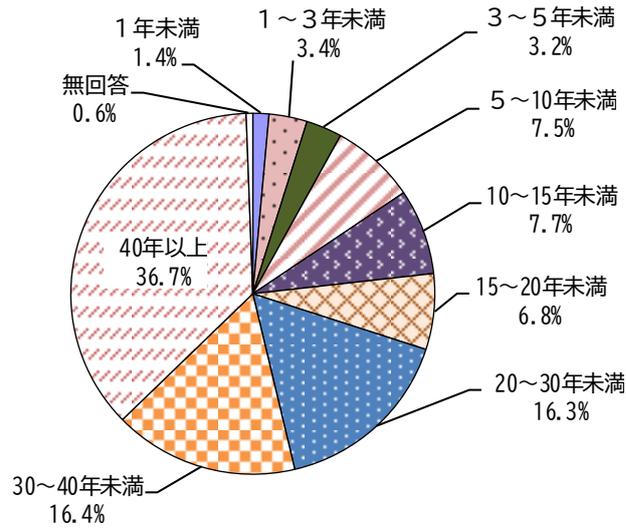
◆職業 (n=2,387)



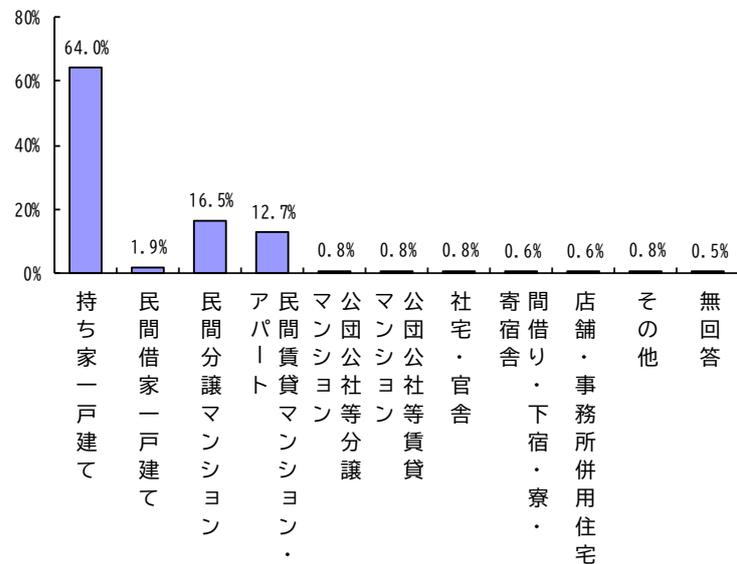
◆世帯の状況 (n=2,387)



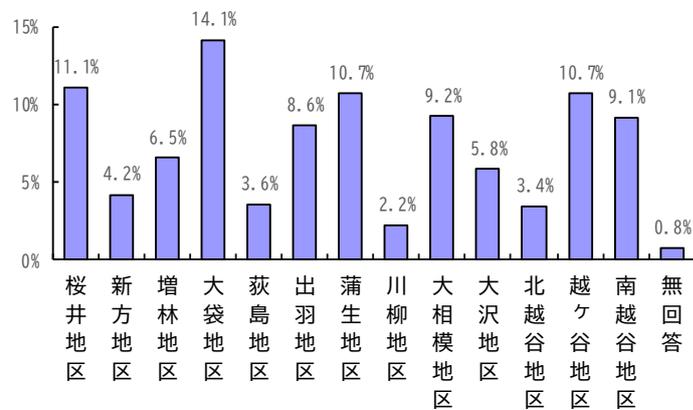
◆居住年数 (n=2,387)



◆居住形態 (n=2,387)



◆居住地区 (n=2,387)



Ⅲ. 調査結果

1. 暮らしや居住意向について

- 現在の暮らし向きは、『満足』（「十分満足している」と「十分とはいえないが、一応満足している」の合計）が5割半ば。
- 『定住意向』（「ずっと住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたいの」合計）は8割弱。
- 『転居意向』（「どちらかといえば引っ越したい」と「引っ越したい」の合計）は1割半ば。その主たる理由は、「交通の便が悪いので」が1割半ばで最も多い。

図 1-1 現在の暮らし向き (n=2,387)

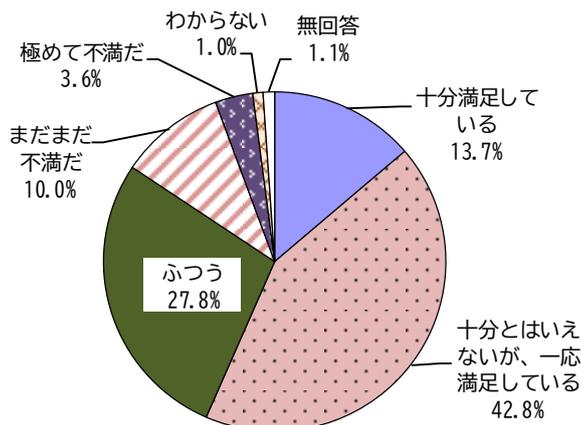


図 1-2 居住意向 (n=2,387)

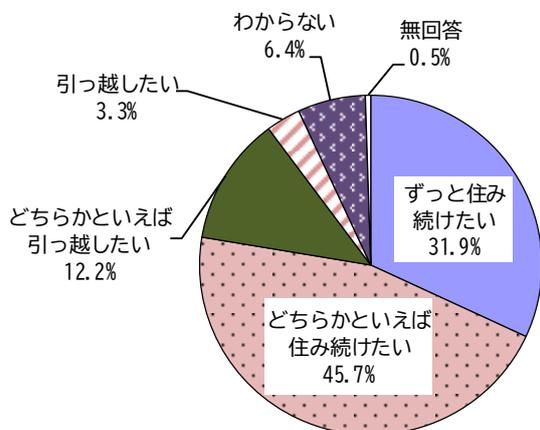
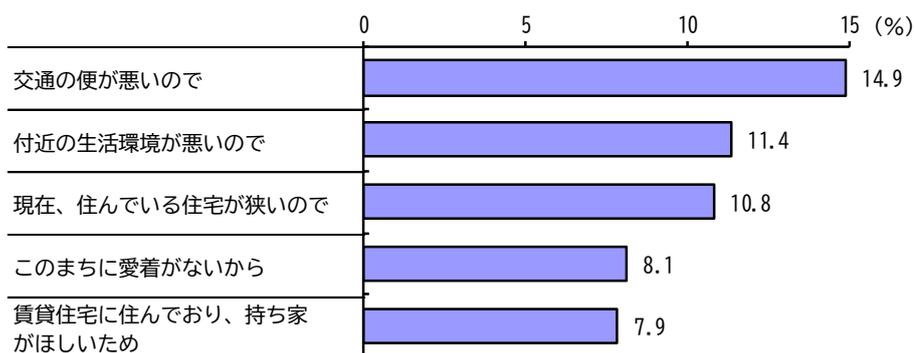


図 1-3 転居意向の理由 (上位5項目) (n=369)



2. 越谷市への愛着度と魅力発信について

- 越谷市への愛着は、『愛着がある』（「とても愛着がある」、「愛着がある」、「やや愛着がある」の合計）が7割強。
- 愛着がある理由は、「日常生活における買い物が便利」が5割半ばで最も多い。
- 市外の知人に「越谷市の魅力」として言われたことがあるものは、「交通の利便性がよい」が約3割で最も多い。

図 2-1 越谷市への愛着 (n=2,387)

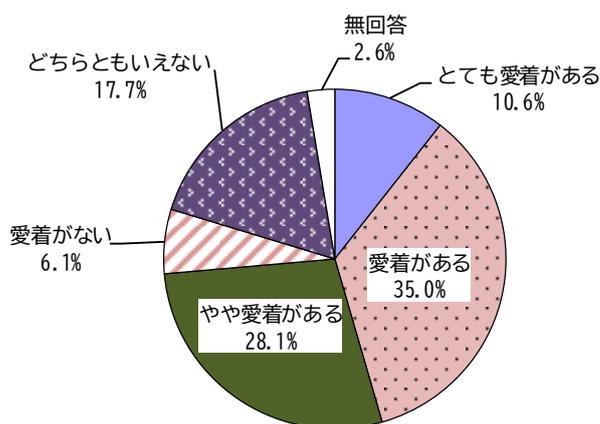


図 2-2 愛着がある理由 (上位5項目) (n=1,757)

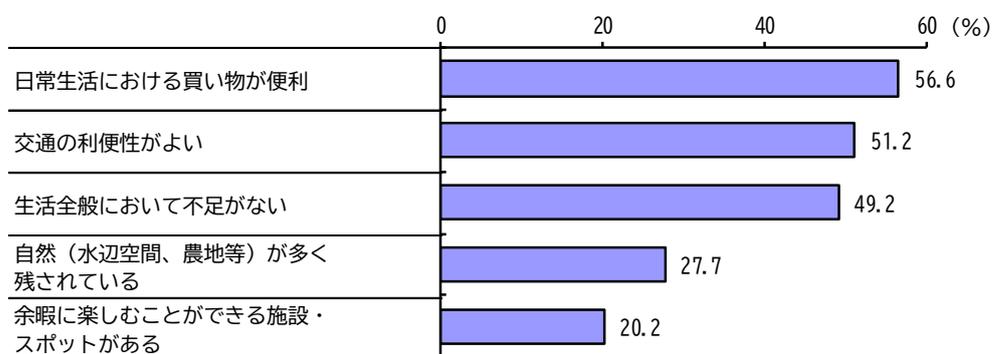
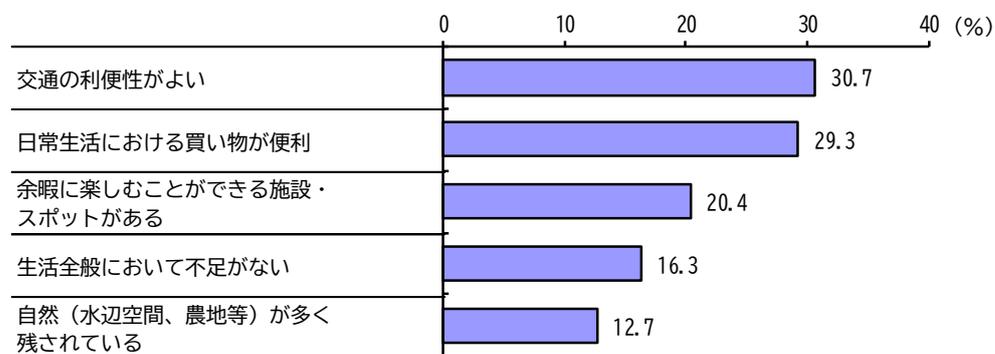


図 2-3 市外の知人に「越谷市の魅力」として言われたことがあるもの (上位5項目) (n=2,387)



3. 広報について

- 市政情報の入手先は、「広報こしがや（自治体広報紙アプリマチイロを含む）」が約5割で最も多い。
- 市政情報を得る手段として『知っているもの』は、「広報こしがや（紙媒体）」が約8割で最も多い。
- 市政情報を得る手段として『活用したことがあるもの』は、「広報こしがや（紙媒体）」が4割半ばで最も多い。
- 広報こしがやの感想は、『わかりやすい』（「わかりやすい」と「おおむねわかりやすい」の合計）が7割半ば強。
- 広報こしがやのわかりにくい点は、「情報が多すぎる」が4割強で最も多い。
- 紙媒体の広報の必要性及び配布方法は、「今までどおり、自治会を通して配布すればよい」が約4割で最も多い。

図 3-1 市政情報の入手先（上位5項目）
(n=2,387)

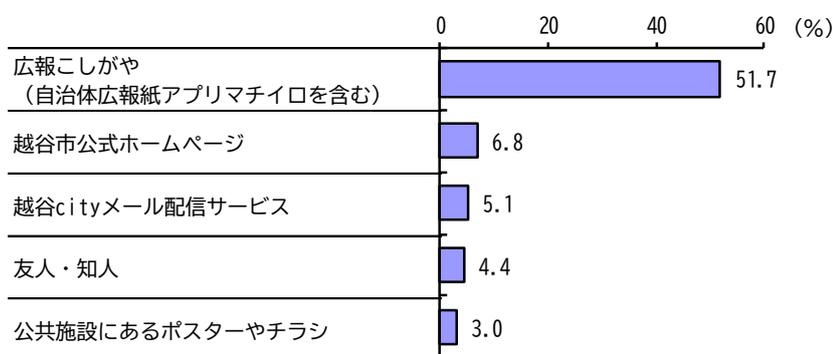


図 3-2 市政情報を得る手段として
『知っているもの』（上位5項目）
(n=2,387)

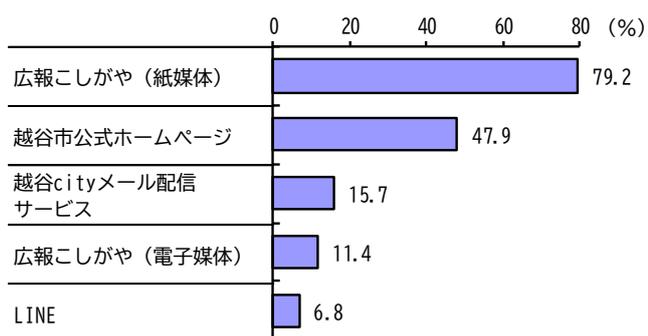


図 3-3 市政情報を得る手段として
『活用したことがあるもの』（上位5項目）
(n=2,387)

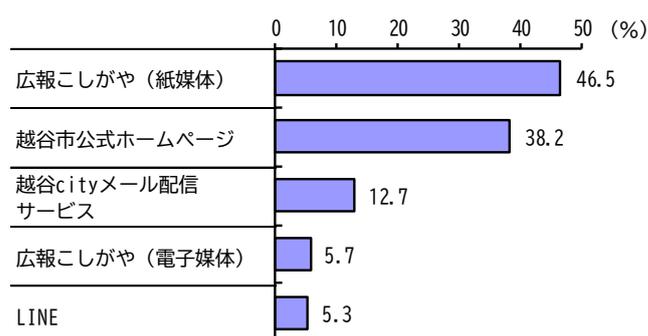


図 3-4 広報こしがやの感想
(n=1,138)

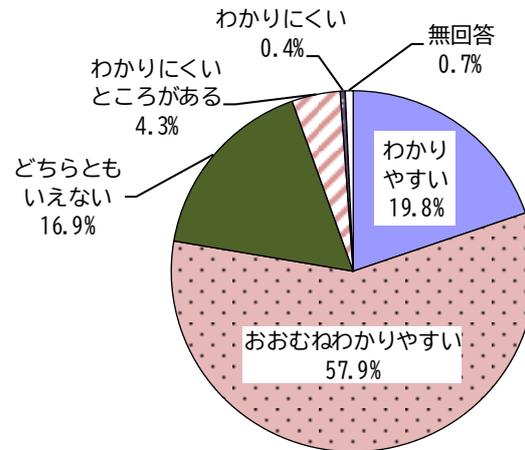


図 3-5 広報こしがやのわかりにくい点 (上位5項目) (n=54)

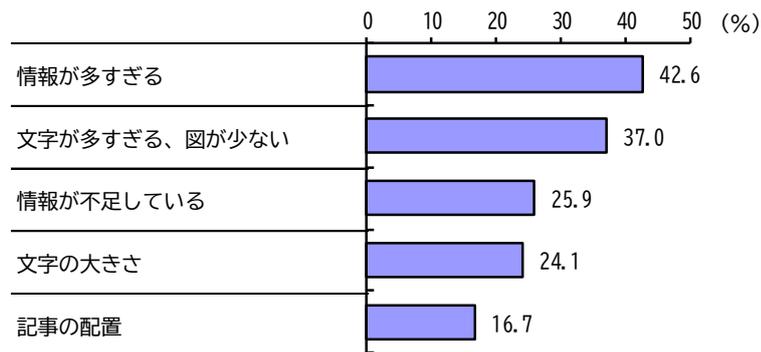
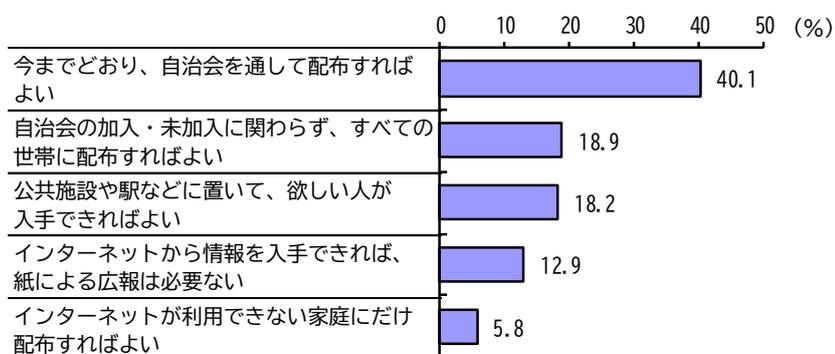


図 3-6 紙媒体の広報の必要性及び配布方法 (n=2,387)



4. 市内の公共交通について

- 公共交通の利用状況について、鉄道は「常に利用している」が3割弱、バスは「全く利用しない」が4割強で最も多い。
 ○公共交通の満足度について、『満足』（「とても満足している」と「やや満足している」の合計）は鉄道が7割半ば、バスが4割強、タクシーが約4割。

図 4-1 公共交通の利用状況 (n=2,387)

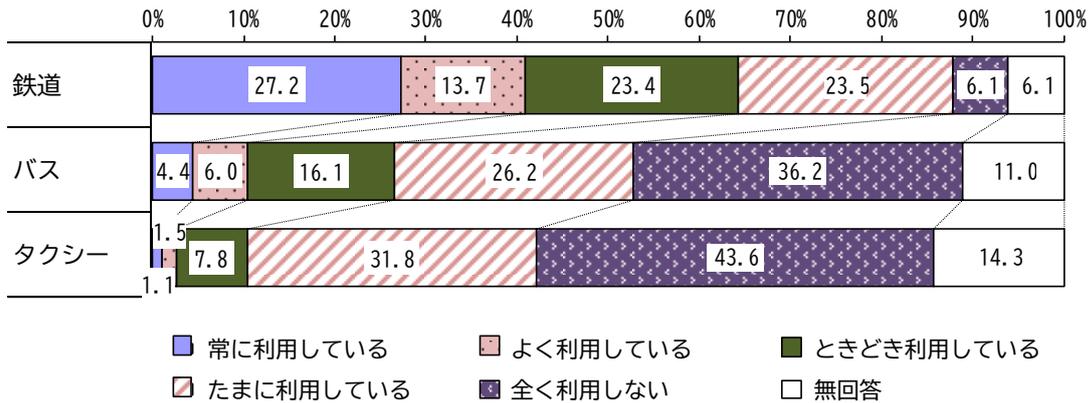
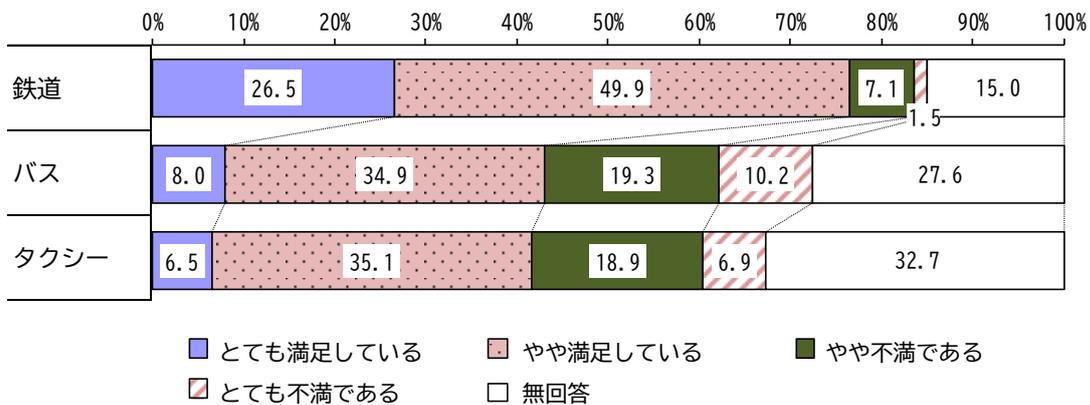


図 4-2 公共交通の満足度 (n=2,387)



5. 景観（風景）について

- 住まいの地区の景観（風景）の満足度は、『満足』（「満足している」と「十分とはいえないが、おおむね満足している」の合計）が約7割。
- 良い景観（風景）のまちをつくるために行政に望むことは、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」が4割半ばで最も多い。

図 5-1 景観（風景）の満足度 (n=2,387)

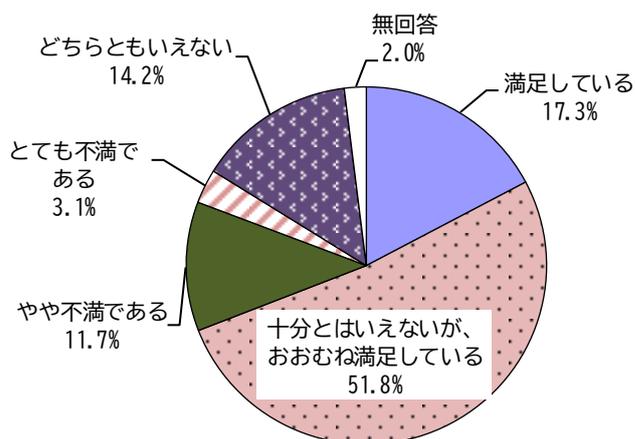
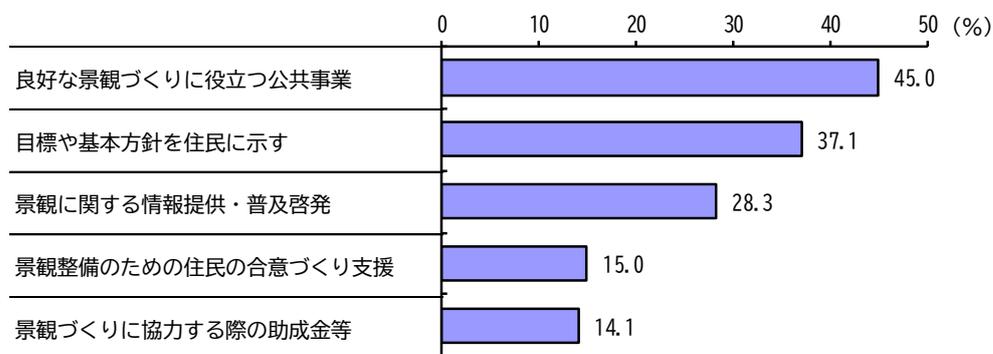


図 5-2 行政に望むこと（上位5項目） (n=2,387)



6. 地場農産物や地産地消について

- 越谷の農業特産物の認知度は、「いちご」が7割強、「ねぎ」が6割強、「くわい」が5割半ばと多くなっている。
- 越谷の農業特産物の購入経験は、「ねぎ」が7割半ばで最も多い。
- 購入場所は、太郎兵衛もち「市民まつりなどイベント」、くわい、山東菜は「農産物直売所」、ねぎ、いちご、チューリップ、小松菜は「市内スーパーマーケット」が最も多い。

図 6-1 越谷の農業特産物の認知度 (n=2,387)

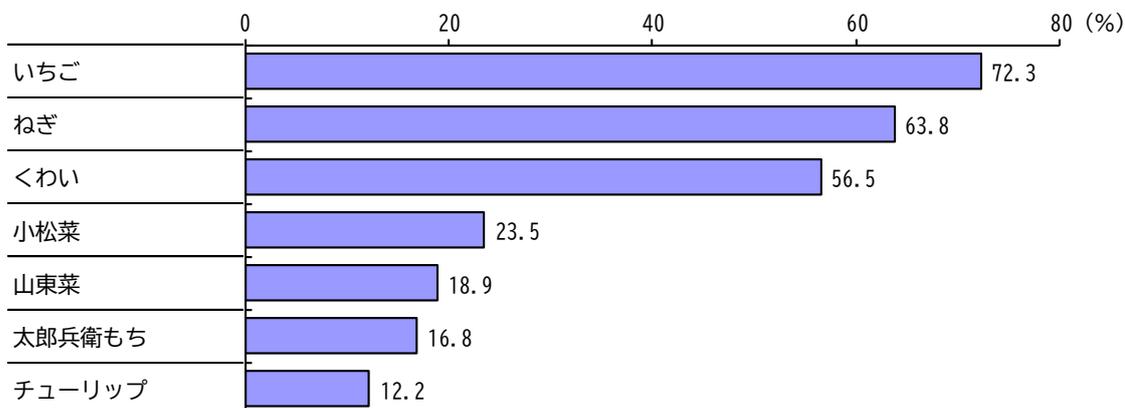
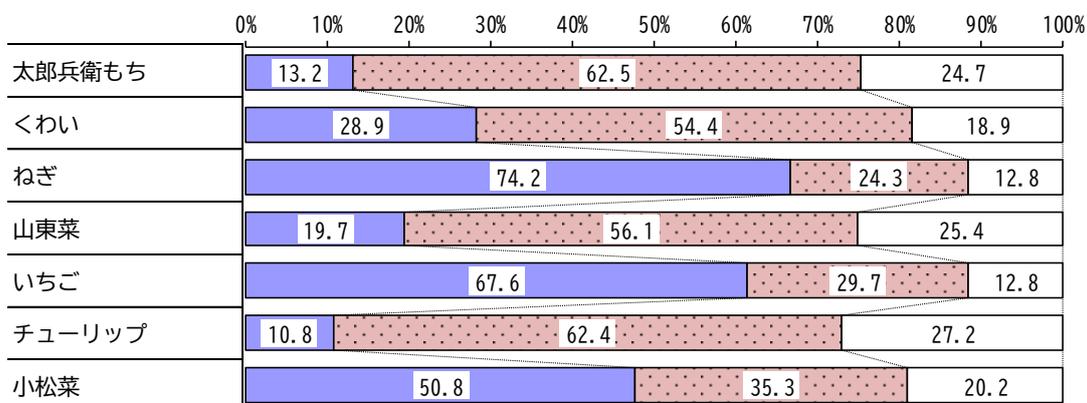
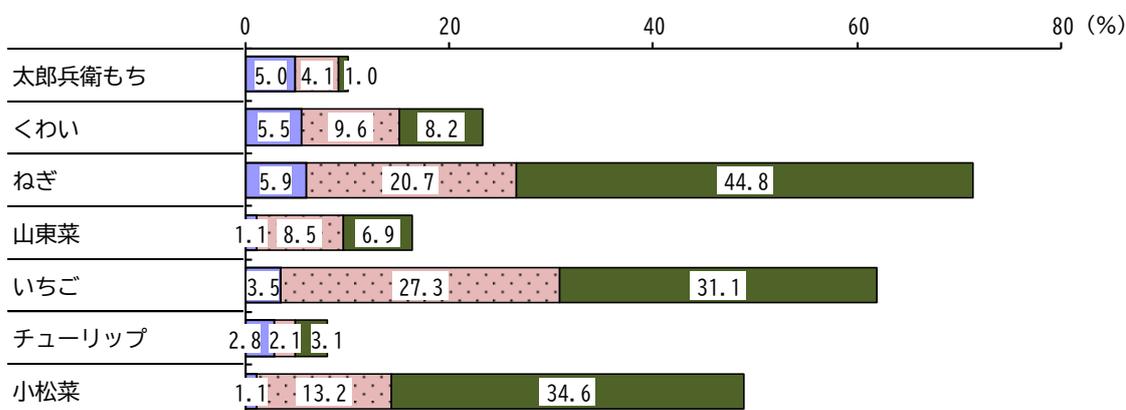


図 6-2 越谷の農業特産物の購入経験・購入場所 (n=2,387)



■ 購入したことがある ■ 購入したことがない □ 無回答



■ 市民まつりなどイベント ■ 農産物直売所 ■ 市内スーパーマーケット

7. 参加と協働のまちづくりについて

- 「参加と協働のまちづくり」の認知度は、『知っている』（「よく知っている」と「まあまあ知っている」の合計）が2割弱。
- 「参加と協働のまちづくり」を知ったきっかけは、「広報こしがや」が8割強で最も多い。
- 「参加と協働のまちづくり」への参加意向は、『参加したい』（「参加したい」と「どちらかといえば参加したい」の合計）が3割半ば。
- 「越谷市自治基本条例」の認知度は、『知っている』（「よく知っている」と「まあまあ知っている」の合計）が1割未満。
- 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけは、「広報こしがや」が7割半ばで最も多い。
- 「越谷市自治基本条例」の普及・啓発方法は、「広報こしがやへの情報掲載」が約6割で最も多い。

図 7-1 「参加と協働のまちづくり」の認知度 (n=2,387)

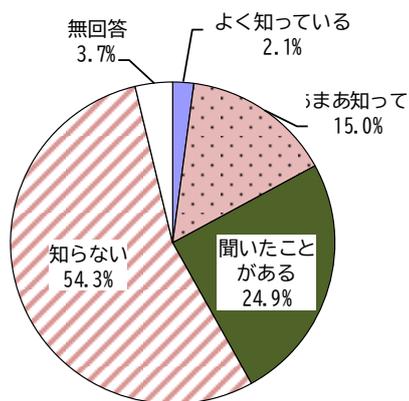


図 7-2 「参加と協働のまちづくり」を知ったきっかけ (上位5項目) (n=1,001)

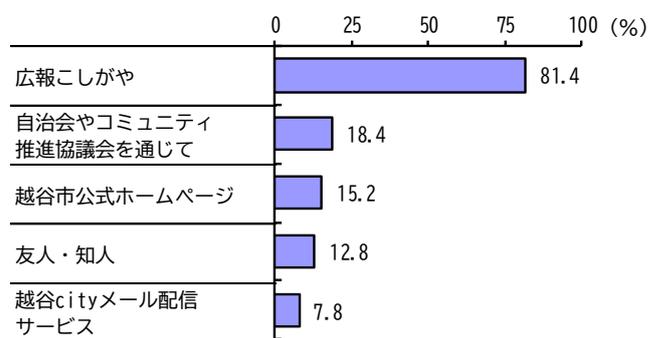


図 7-3 「参加と協働のまちづくり」への参加意向 (n=2,387)

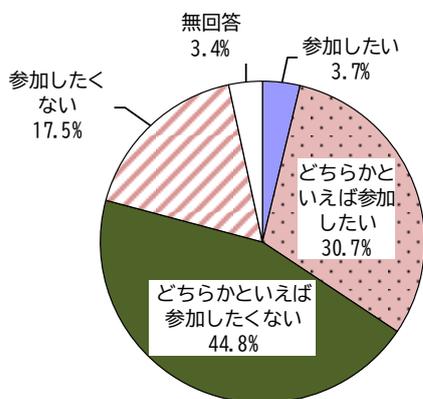


図 7-4 「越谷市自治基本条例」の認知度 (上位5項目) (n=2,387)

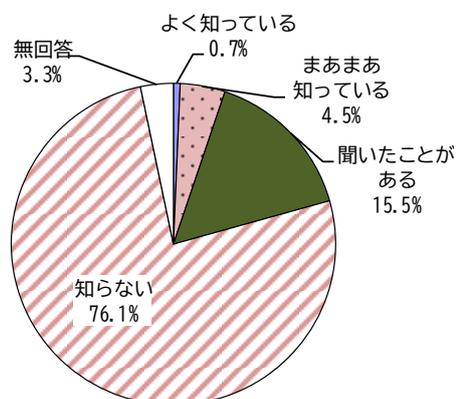


図 7-5 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ (上位5項目) (n=493)

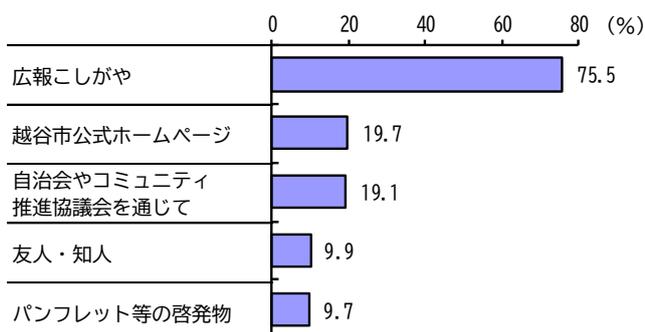
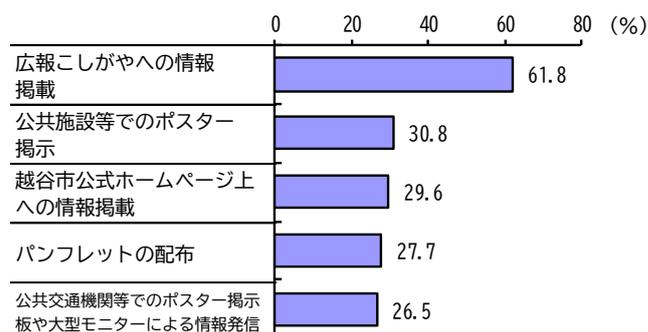


図 7-6 「越谷市自治基本条例」の普及・啓発方法 (上位5項目) (n=2,387)



8. 駅周辺における放置自転車について

- 放置自転車の現状認識は、「通行の妨げになると感じることもある」が約2割となっている。
- 市内各駅周辺における放置自転車対策の『知っているもの』は、すべての対策で「知っている」が5割を超えている。
- 市内各駅周辺における放置自転車対策の『感じていること』は、すべての対策で「対策は十分で、継続する必要がある」が最も多い。

図 8-1 放置自転車の現状認識 (n=2, 387)

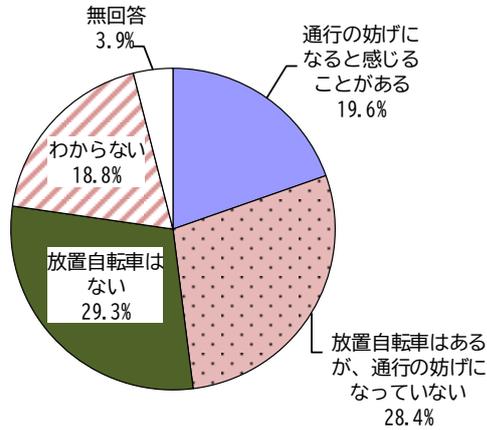
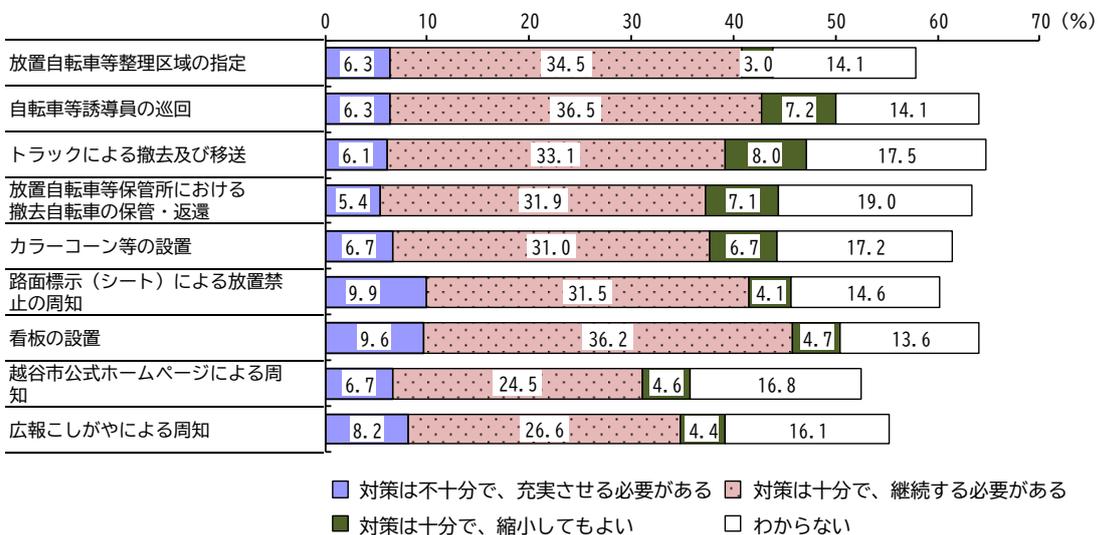
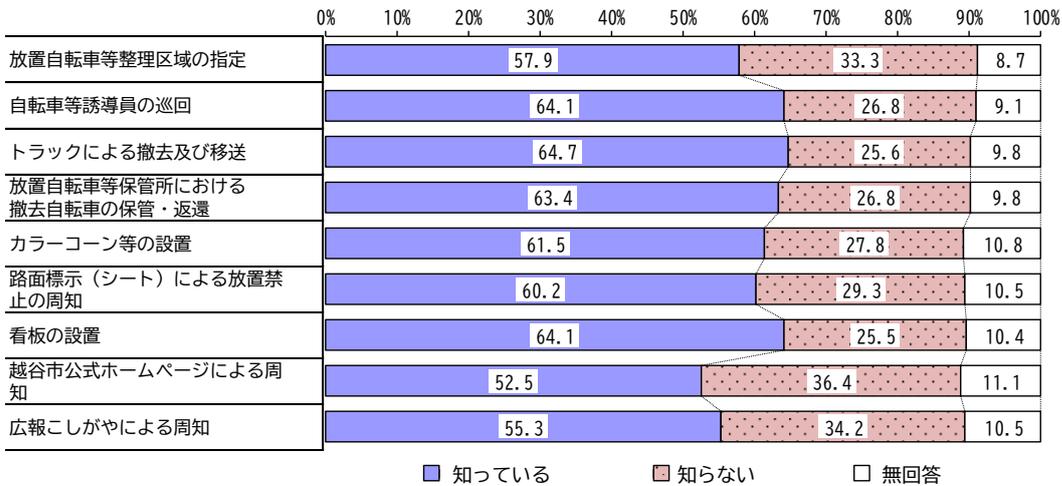


図 8-2 市内各駅周辺における放置自転車対策の『知っているもの』・『感じていること』 (n=2, 387)



9. 環境政策について

- 「環境や環境の取組への関心度は、『関心がある』（「関心がある」と「ある程度関心がある」の合計）が7割弱。
- 関心がある環境の取組は、「ごみの減量・リサイクル」が約7割で最も多い。
- 「脱炭素社会」の認知度は、『言葉も意味も知っている』が3割半ば。
- 脱炭素社会の実現への取組意向は、『取り組みたい』（「積極的に取り組みたい」と「ある程度取り組みたい」の合計）が8割半ば。
- 脱炭素社会の実現に取り組みたくない理由は、「地球温暖化への対策としてどれだけ効果があるのかわからない」が4割半ばで最も多い。
- 脱炭素社会の実現につながる行動で「実践している」行動は、「ごみの正しい分別や資源のリサイクルを積極的に行う」と「レジ袋等の使用量を削減するため、買い物にはマイバッグやかごを持参する」が約8割で多い。

図 9-1 環境や環境の取組への関心度
(n=2,387)

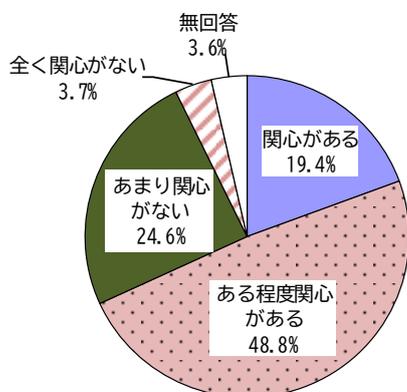


図 9-2 関心がある環境の取組
(上位5項目) (1,627)

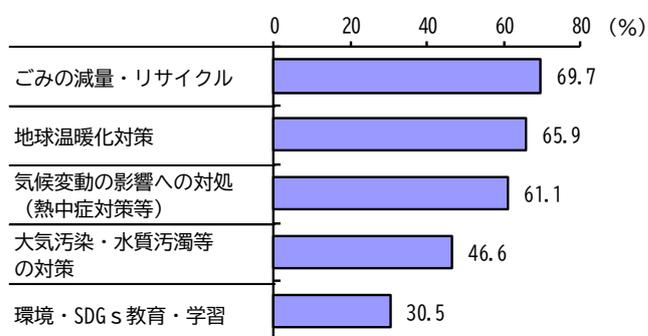


図 9-3 「脱炭素社会」の認知度
(n=2,387)

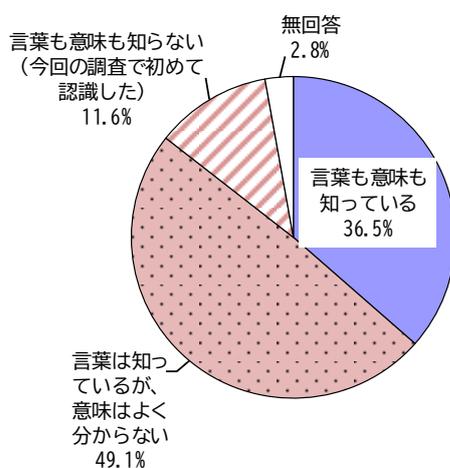


図 9-4 脱炭素社会の実現への取組意向
(n=2,387)

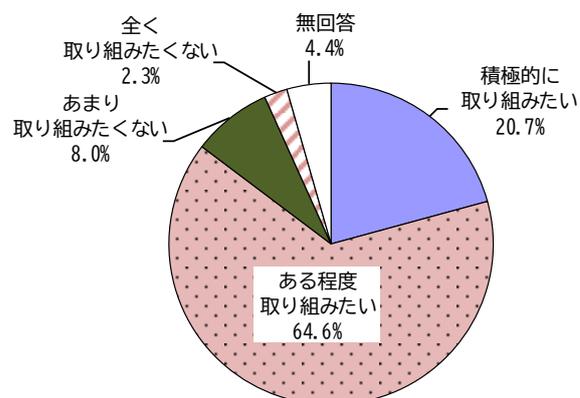


図 9-5 脱炭素社会の実現に取り組みたくない理由 (n=245)

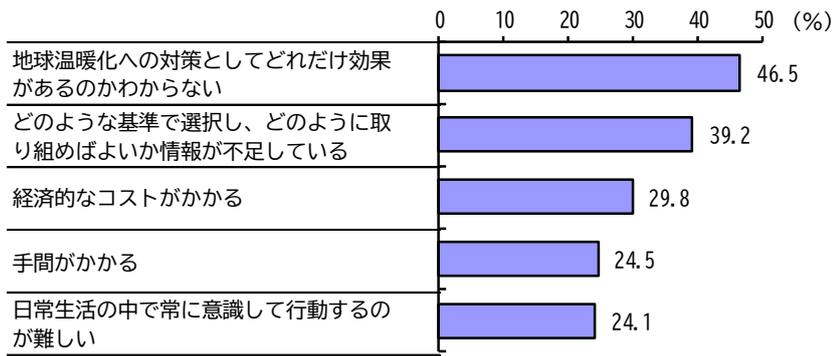
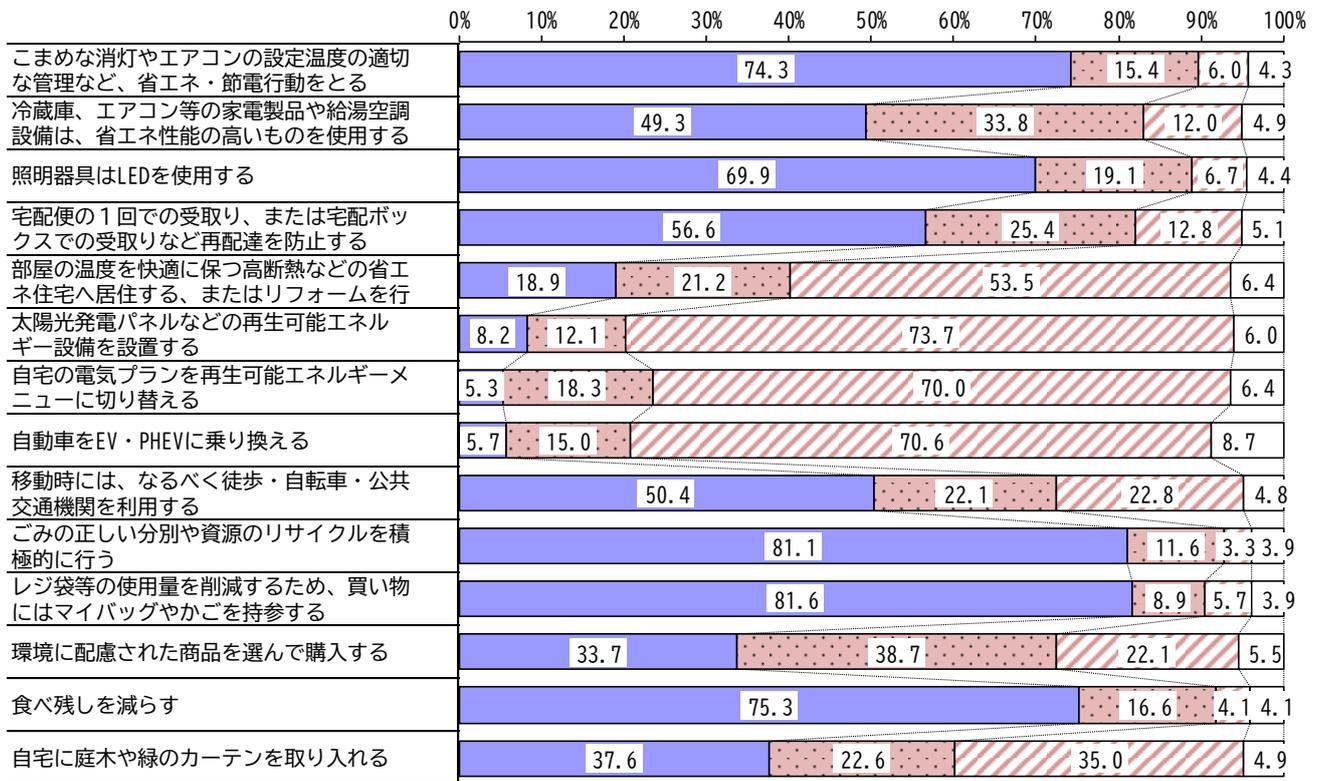


図 9-6 脱炭素社会の実現につながる行動の実践状況 (n=2,387)



■ 実践している ■ 実践を検討している ■ 検討もしていない □ 無回答

10. 人権全般に関する意識について

- 基本的人権の意識について、『尊重されている』（「十分尊重されている」と「やや尊重されている」の合計）が約6割。
- 10年前と比べた人権意識の変化について、『高くなっている』（「非常に高くなっている」と「やや高くなっている」の合計）は6割弱。
- 関心のある人権問題は、「女性の人権問題」と「インターネット上における人権問題」が4割強で最も多い。
- 人権が侵害されたと感じたことは、「ある」が2割弱、「ない」が5割半ば。
- 人権侵害を感じた内容は、「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」が5割強で最も多い。

図 10-1 基本的人権の意識 (n=2,387)

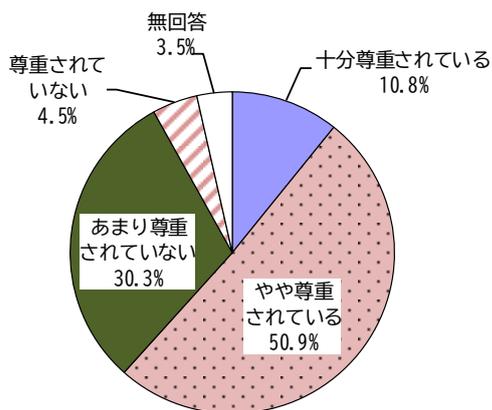


図 10-2 人権意識の変化 (n=2,387)

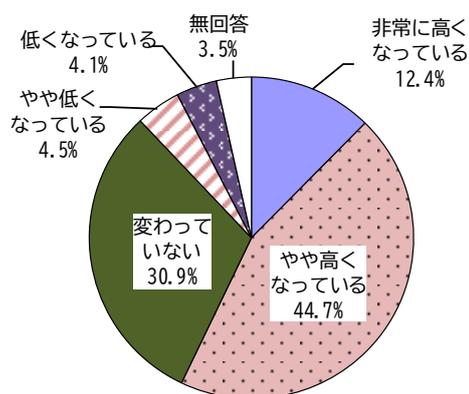


図 10-3 関心のある人権問題 (上位5項目) (n=2,387)

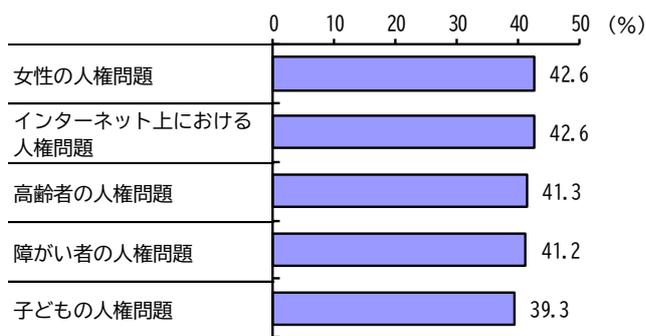


図 10-4 人権侵害を感じたこと (n=2,387)

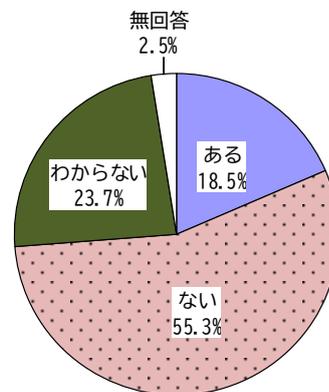
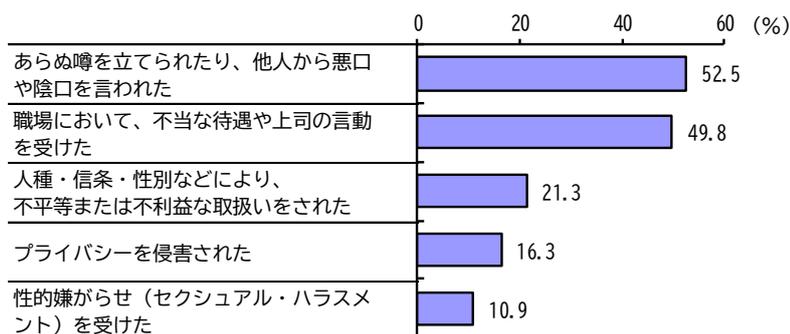


図 10-5 人権侵害を感じた内容 (上位5項目) (n=442)



11. 男女共同参画について

- 子どもに対する「教育・しつけ」で大切だと思うことは、「やさしさや思いやりをもたせる」が男の子で約7割、女の子で8割弱と最も多い。
- ドメスティックバイオレンス（DV）の経験について、『ある』（「何度もあった」と「1～2度あった」の合計）は、『身体的暴力』と『精神的暴力』が約1割となっている。
- ドメスティックバイオレンス（DV）を受けたことについての相談状況は、「相談した」が3割半ば。
- ドメスティックバイオレンス（DV）について相談した人（場所）は、「家族・親せき」が約7割で最も多い。
- ドメスティックバイオレンス（DV）について相談しなかった理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が5割で最も多い。
- 性的少数者の人たちが暮らしやすくなるために必要な取組は、「学校教育の充実」が4割半ば強で最も多い。

図 11-1 男の子に対する「教育・しつけ」で大切だと思うこと（上位5項目）
（n=2,387）

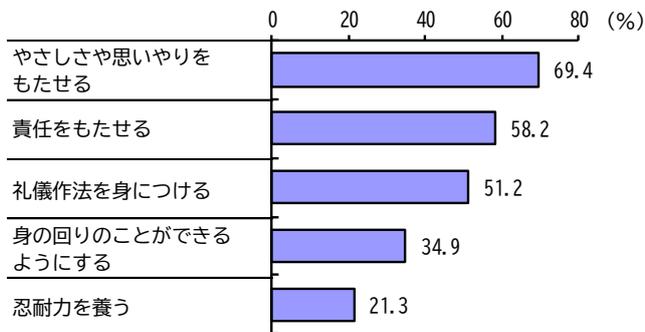


図 11-2 女の子に対する「教育・しつけ」で大切だと思うこと（上位5項目）
（n=2,387）

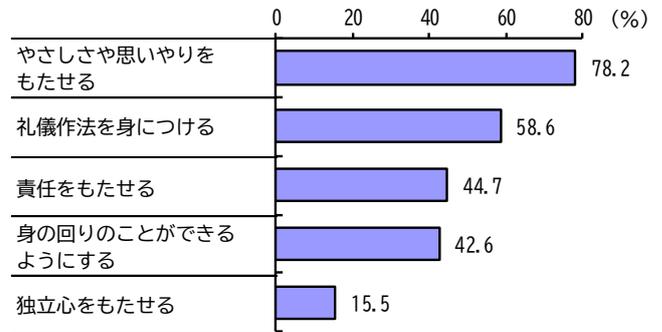


図 11-3 ドメスティックバイオレンス（DV）の経験（n=2,387）

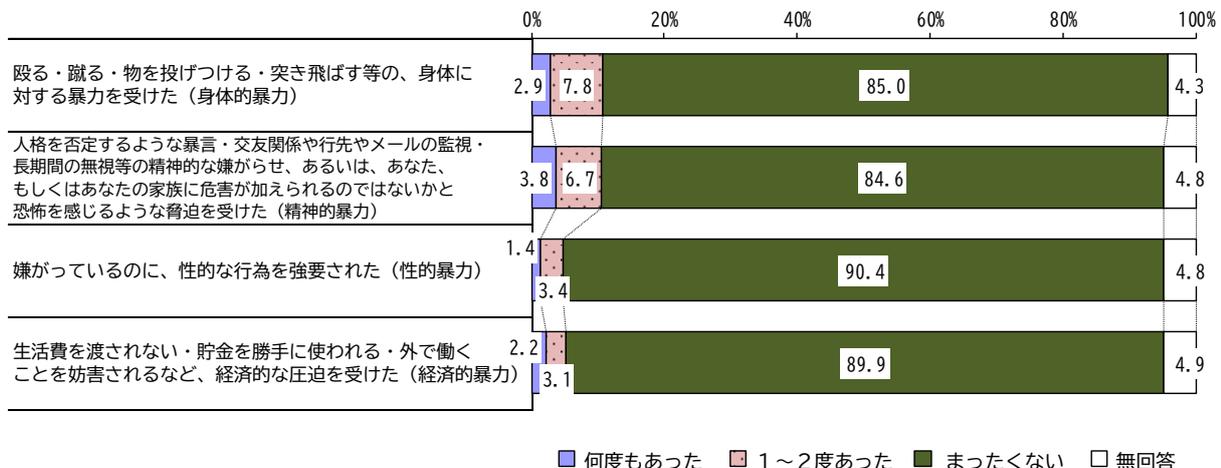


図 11-4 ドメスティックバイオレンス（DV）を受けたことについての相談状況（n=416）

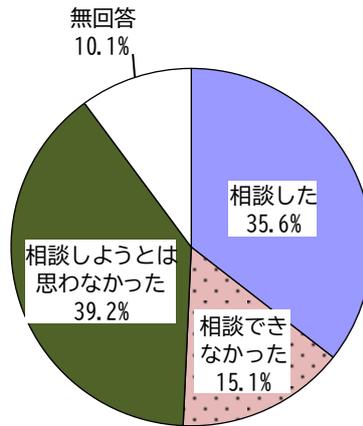


図 11-5 ドメスティックバイオレンス（DV）について相談した人（場所）（上位5項目）（n=148）

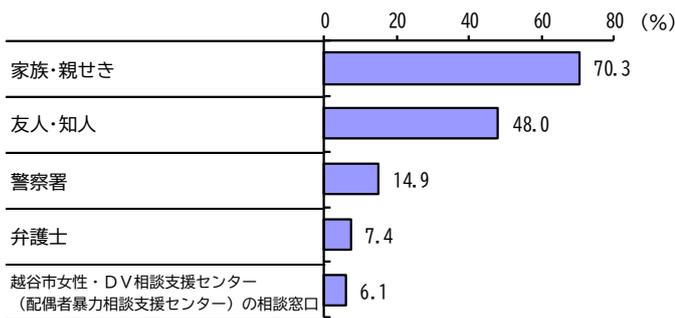


図 11-6 ドメスティックバイオレンス（DV）について相談しなかった理由（上位5項目）（n=226）

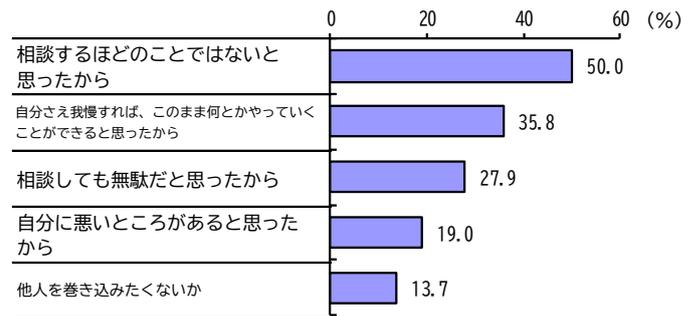
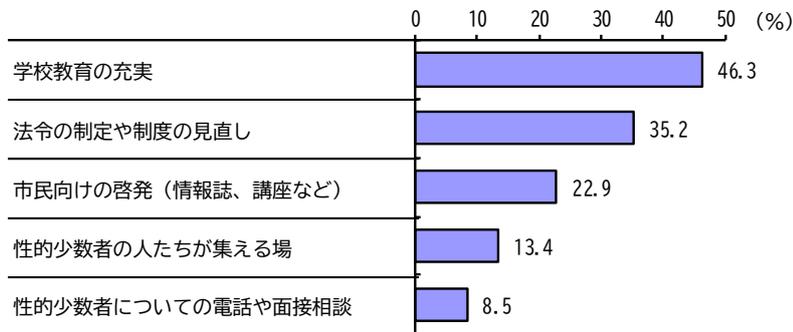


図 11-7 性的少数者の人たちが暮らしやすくなるために必要な取組（上位5項目）（n=2,387）



12. 自殺防止について

- 自殺（自死）したいと考えたことがある（「はい」）のは2割弱。
- 自殺（自死）したいと考えた理由は、「家庭問題」が4割強で最も多い。
- 自殺（自死）について相談する相手は、「配偶者」が2割弱で最も多い。
- 相談窓口を知っている（「はい」）のは3割半ば。
- 自殺防止に最も効果的な対策は、「健康や病気に関する相談」と「資金繰りや多重債務など経済的な問題に関する相談」が2割強が多い。

図 12-1 自殺（自死）したいと考えたこと
(n=2,387)

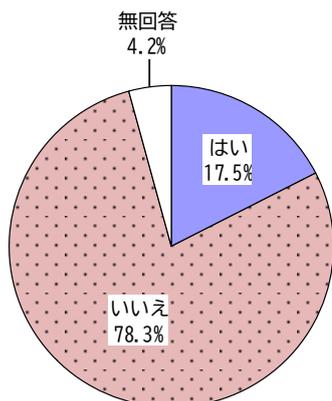


図 12-2 自殺（自死）したいと考えた理由
(上位5項目) (n=417)

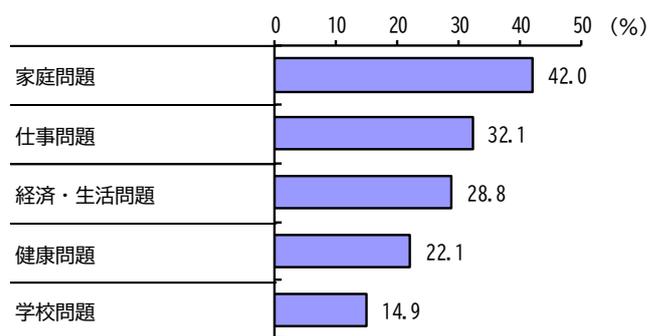


図 12-3 自殺（自死）について相談する相手
(上位5項目) (n=2,387)

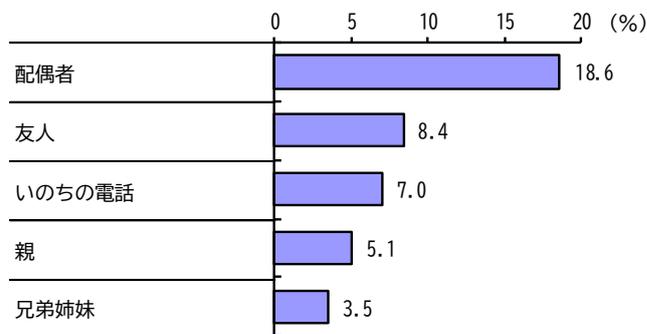


図 12-4 自殺（自死）に関する相談窓口の
認知度 (n=2,387)

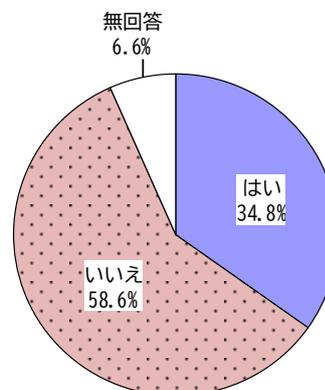
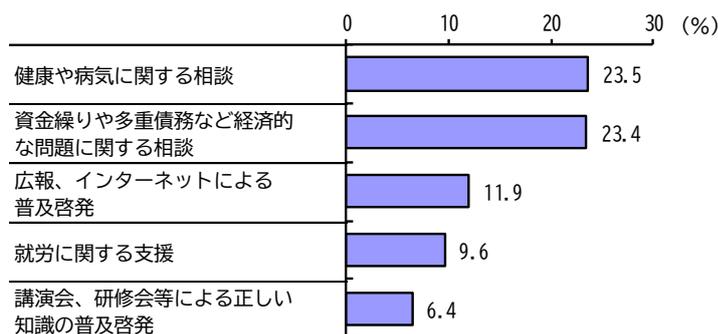


図 12-5 自殺防止に最も効果的な対策 (上位5項目) (n=2,387)



13. 地域医療体制について

- 地域医療体制の認知度について、『知っている』（「利用したことがある」と「利用したことはないが知っている」の合計）は、「越谷市夜間急患診療所」が約8割、「休日当番医制度」が7割半ば強、「埼玉県救急電話相談（＃7119）」が6割弱、「埼玉県A I 救急相談」が2割弱。
- 医療機関の情報の入手方法は、「インターネットで調べる（越谷市・厚生労働省ホームページを除く）」が約5割で最も多い。
- 特に力を入れる必要がある地域医療関連事業は、「夜間急患診療所」が4割半ば弱で最も多い。

図 13-1 地域医療体制の認知度 (n=2,387)

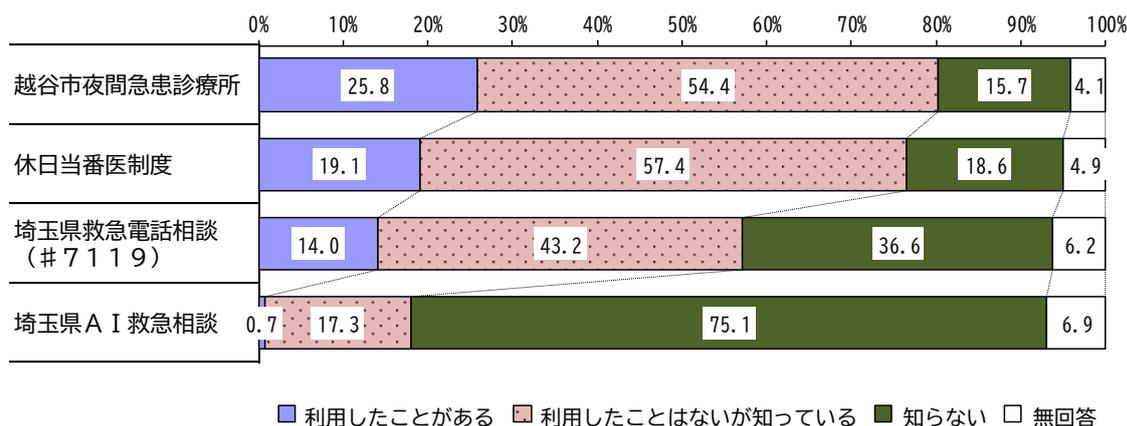


図 13-2 医療機関の情報の入手方法 (上位5項目) (n=2,387)

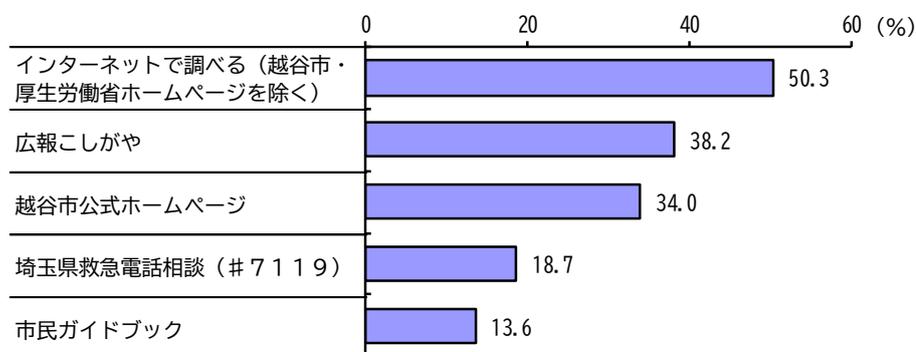
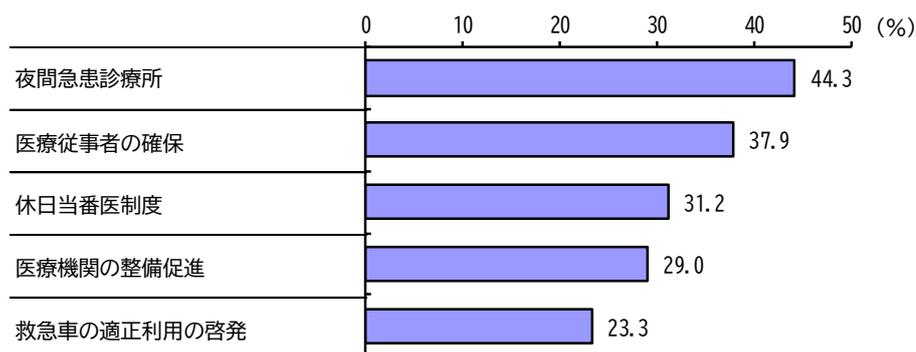


図 13-3 特に力を入れる必要がある地域医療関連事業 (上位5項目) (n=2,387)



14. 介護サービスについて

- 介護サービスの利用時に事業・事業所・従事者に求めるものについて、事業の形態は「地域に密着した事業展開をしている施設（市内在住者のみ利用できる施設）」が4割弱で最も多い。
- 事業所の体制は「従事者のスキル向上や知識の取得に力を入れている」が約6割で最も多い
- 従事者の資質は「利用者の話をしっかり聞く」が6割弱で最も多い。

図 14-1 介護サービスの利用時に事業の形態に求めるもの (n=2,387)

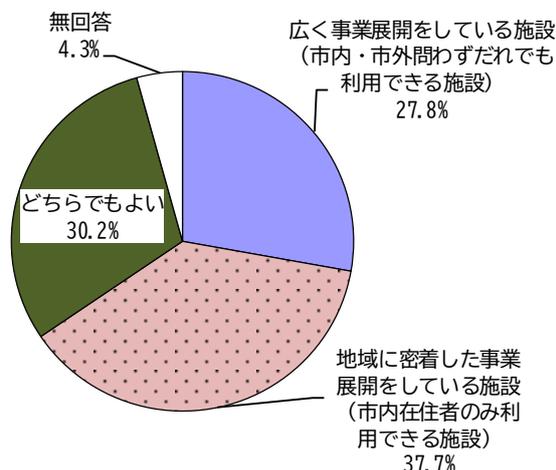


図 14-2 介護サービスの利用時に事業所の体制に求めるもの (n=2,387)

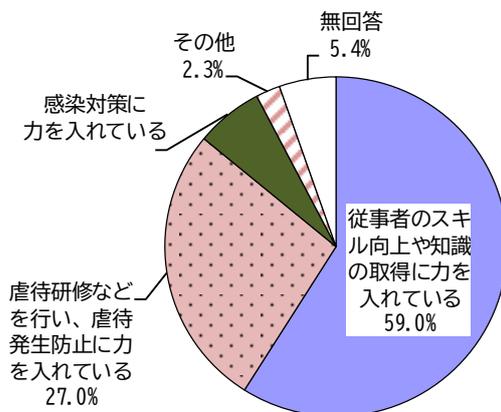
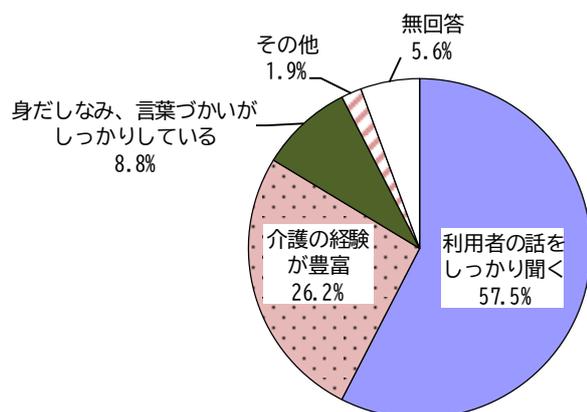


図 14-3 介護サービスの利用時に従事者の資質に求めるもの (n=2,387)



15. 芸術文化活動について

- 日常的に実施している芸術文化活動は、「音楽」が3割弱で最も多い。
- 市が主催する芸術文化事業の認知度・参加状況について、『知っている』（「参加（出演、出展、観覧、応募）したことがある」と「知っているが、参加（出演、出展、観覧、応募）したことがない」の合計）は、「越谷市民文化祭」が6割弱で最も多い。
- 市が主催する芸術文化事業に参加しない理由は、「事業そのものに興味・関心がない」が約2割で最も多い。

図 15-1 日常的に実施している芸術文化活動（上位5項目）（n=2,387）

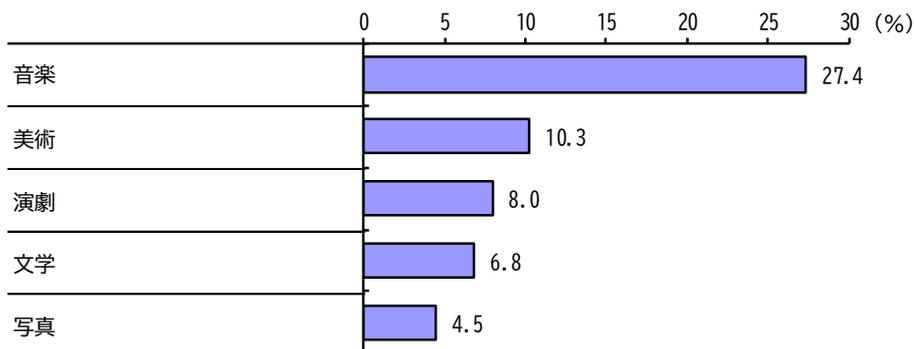
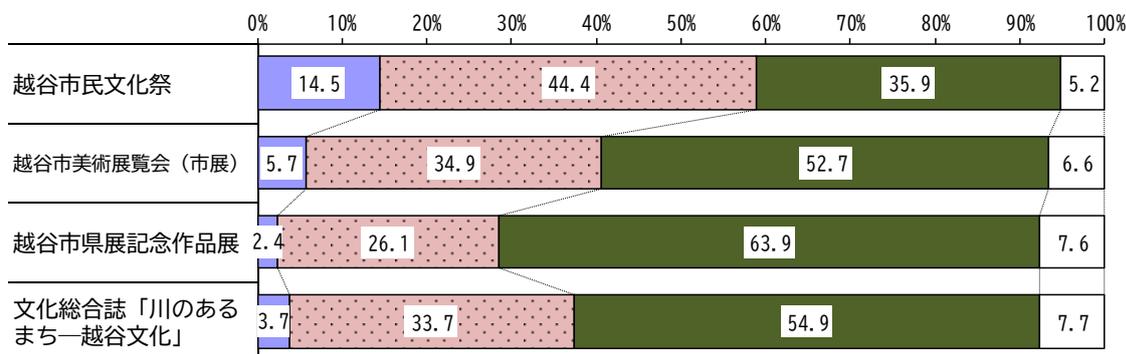
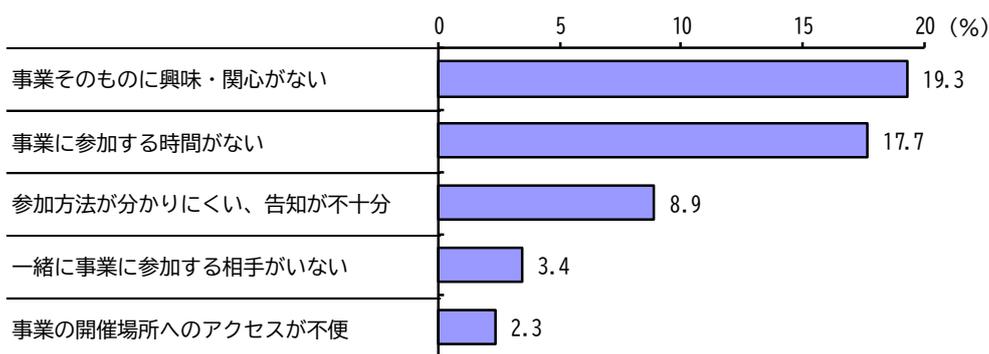


図 15-2 市が主催する芸術文化事業の認知度・参加状況（n=2,387）



- 参加（出演、出展、観覧、応募）したことがある
- 知っているが、参加（出演、出展、観覧、応募）したことがない
- 知らない
- 無回答

図 15-3 市が主催する芸術文化事業に参加しない理由（上位5項目）（n=1,342）



16. 生涯学習活動について

- 自生涯学習活動の経験について、「経験した」が3割弱。
- 経験した生涯学習活動は、「健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など）」が6割弱で最も多い。
- 生涯学習活動を生かしているかについて、「生かしている」が4割弱。
- 生涯学習活動を生かしている分野は、「文化・スポーツ活動」が約6割で最も多い
- 開催してほしい講座・教室は、「健康・スポーツ（健康・医学・栄養・食育・ジョギング・水泳など）」が4割強で最も多い

図 16-1 生涯学習活動の経験
(n=2,387)

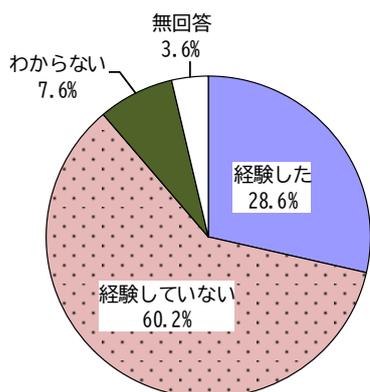


図 16-2 経験した生涯学習活動
(上位5項目) (n=682)

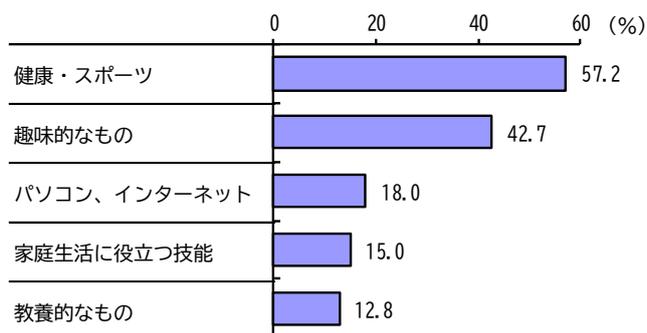


図 16-3 生涯学習活動を生かしているか
(n=2,387)

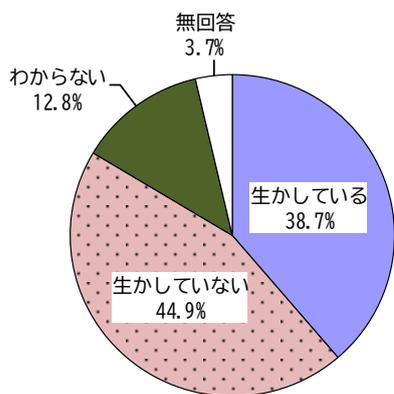


図 16-4 生涯学習活動を生かしている分野
(上位5項目) (n=264)

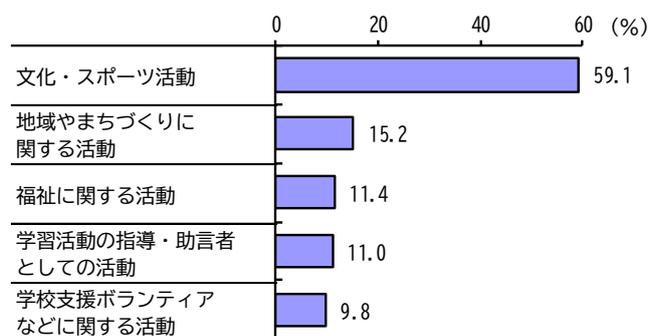
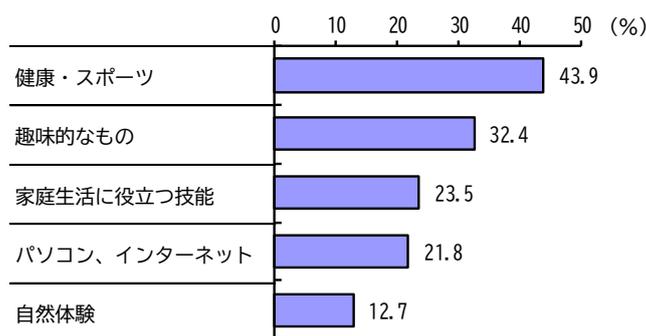


図 12-5 開催してほしい講座・教室 (上位5項目) (n=2,387)



17. スポーツ・レクリエーションの実施状況について

- この1年間のスポーツ・レクリエーション活動の実施状況は、『週に1回以上』（「週に3回以上」と「週に1～2回程度」の合計）は4割強。
- 活動を行った主な理由は、「運動不足解消」が約7割で最も多い。
- 行っていない理由は、「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」が4割強で最も多い。
- 今後、行ってみたいと思う活動について、比較的軽いスポーツは「ウォーキング」が4割弱、野外活動は「ハイキング」が約2割、競技的スポーツは「卓球」が約1割で最も多い。

図 17-1 スポーツ・レクリエーション活動の実施状況 (n=2,387)

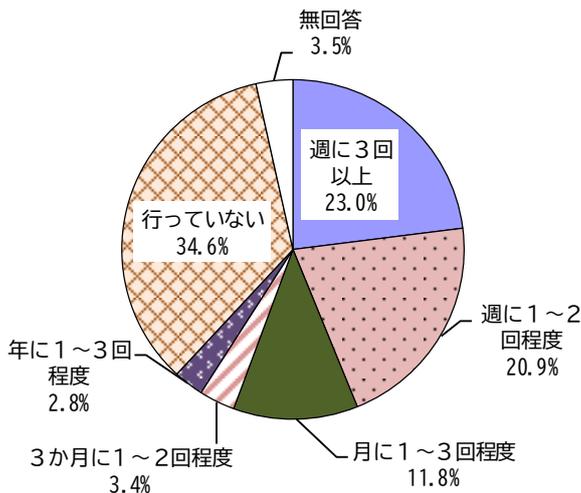


図 17-2 スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由 (上位5項目) (n=1,477)

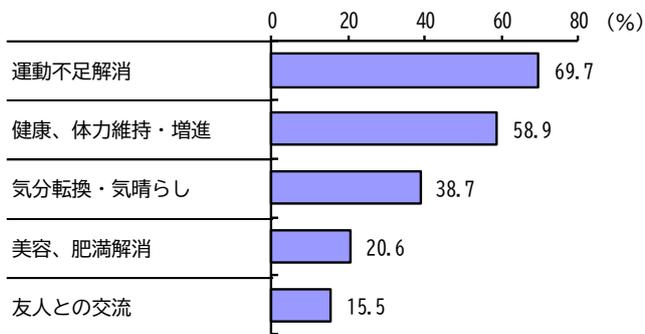


図 17-3 スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由 (上位5項目) (n=827)

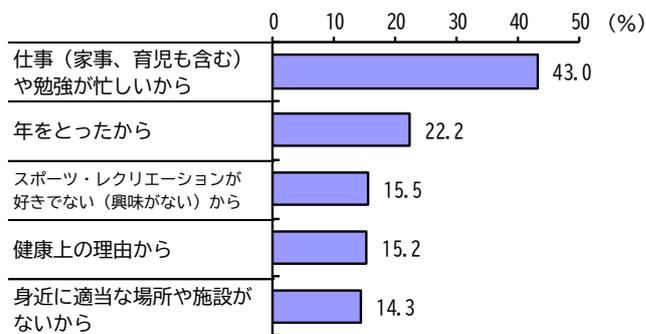
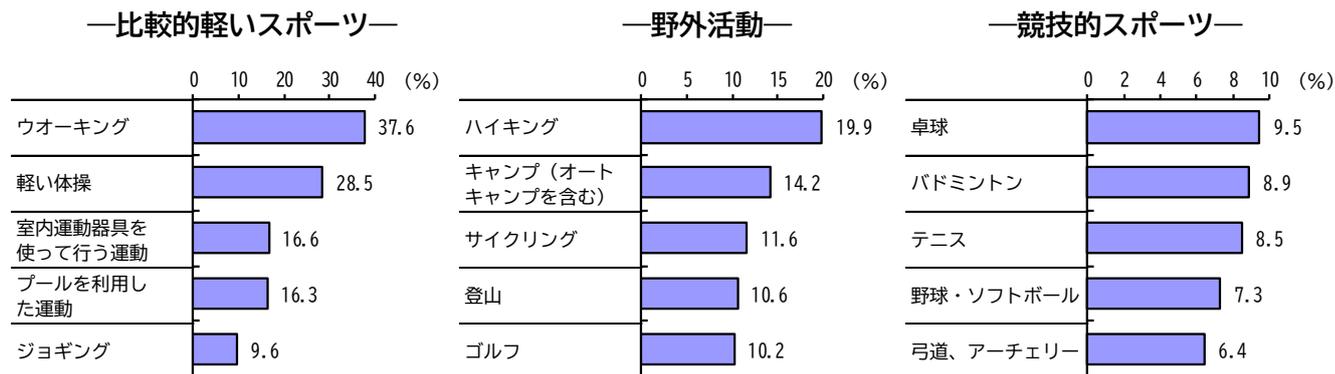


図 17-4 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動 (上位5項目) (n=2,387)



18. 越谷市の施策について

- 市の施策について、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」は、「駅周辺の整備」が約3割で最も多い。
- 今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」は、「防犯対策」が約3割で最も多い。

図 18-1 よくなってきたと感じるもの
(上位 10 項目) (n=2,387)

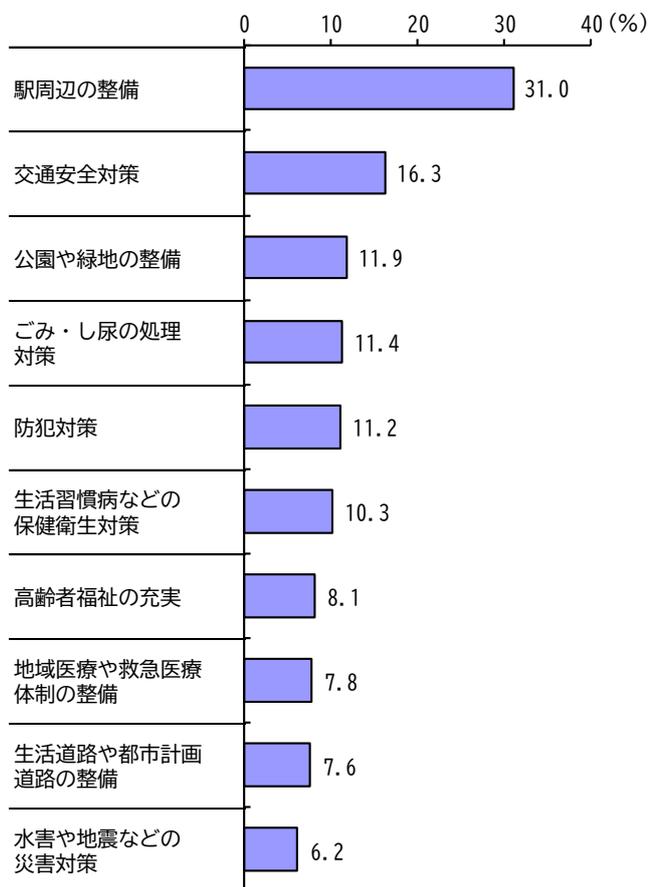
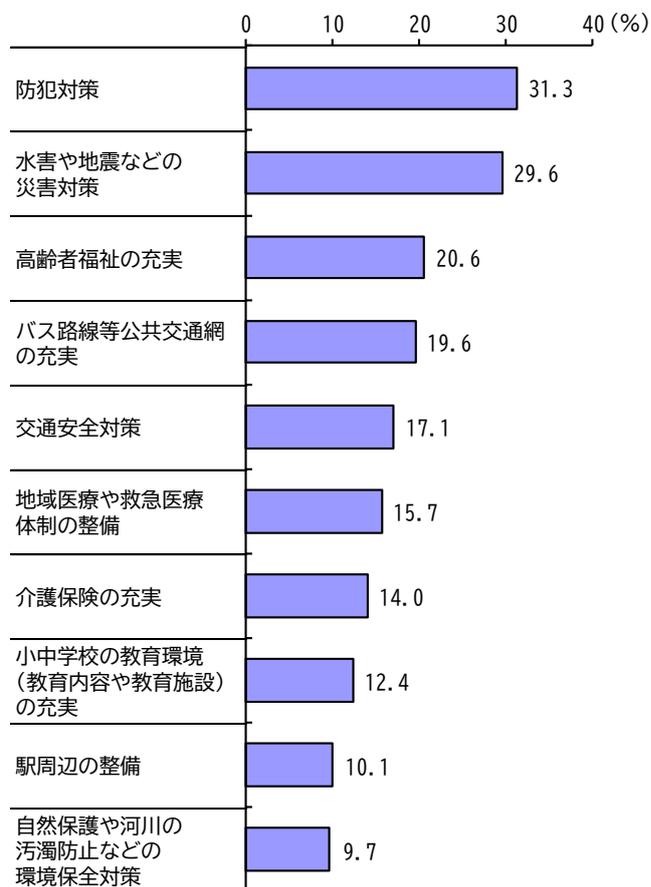


図 18-2 特に力を入れるべきだと思われるもの
(上位 10 項目) (n=2,387)



令和6年度 市政世論調査報告書 概要版

令和6年11月

発行：越谷市 市民協働部 くらし安心課
〒343-8501 埼玉県越谷市越ヶ谷四丁目2番1号
電話 048(963)9336(直通)

調査実施：株式会社アイアールエス
〒160-0004 東京都新宿区四谷三丁目1番3号
電話 03(3357)7181
